

都道府県毎の地点数及び検体数の推移（測定計画ベース）

1 . 全項目についてみると、平成 15 から 17 年度にかけて地点数の減少が 1 割を超えているのは北海道、香川、宮崎、鹿児島。検体数の減少が 1 割を超えているのは、北海道、石川、福井、香川、宮崎、鹿児島。

逆に地点数が 1 割以上増加しているのは、群馬、東京、山梨、滋賀、奈良、佐賀、大分。検体数が 1 割以上増加しているのは、滋賀、奈良、大分。

全国的には、地点数は 2 % の増加。検体数は 1 % の減少。全亜鉛（亜鉛含有量を含む）要監視項目の新規項目を除く従来からの項目についてみると、地点数は 1 % の減少、検体数は 3 % の減少。新規に加わった項目の測定のために、従来からの項目の測定を縮小していると推測される。

1 地点当たりの検体数はほとんどの県で減少。

2 . 各項目種類毎にみると、

環境基準健康項目については、地点数で 2 %、検体数で 7 % 減少。

環境基準生活環境項目については、地点数で 3 %、検体数で 1 % 増加。但し、全亜鉛を除くと、それぞれ 1 %、2 % 減少。

要監視項目については、地点数で 31 %、検体数で 27 % 増加。但し、新規項目を除くと、それぞれ 6 %、3 % の増加。

特殊項目（亜鉛含有量を除く）については、地点数、検体数とも 8 % 減少。

注）ここでいう「地点数」とは、測定地点の実数ではなく、環境基準等の項目ごとに測定されている地点数を総計した、延べ地点数である。